

2022年10月12日

～PPA モデル事業の第1号案件が決定～
日本製紙クレシア 開成工場で、Day Z power (デイズパワー) 採用

株式会社山善（本社：大阪市西区／代表取締役社長：長尾雄次 以下、当社）と大阪ガス株式会社（以下、大阪ガス）100%子会社の Daigas エナジー株式会社（本社：大阪府中央区／代表取締役社長：井上雅之 以下、Daigas エナジー）は、2023年3月末までに日本製紙クレシア株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：福島一守 以下、日本製紙クレシア）の開成工場にて PPA モデル事業^{*1}を開始する予定です。これは、当社と Daigas エナジーが日本製紙クレシアの開成工場に、太陽光発電設備を設置・保有・維持管理をしながら、そこで発電された太陽光由来の再生可能エネルギー100%の電気（以下、再エネ電気）を20年間にわたり日本製紙クレシアに供給・販売するものです。



当社と Daigas エナジーは、2021年10月に PPA モデル事業における基本業務提携契約を締結し、両社で共同のブランド「Day Z power (デイズパワー)」を立ち上げました。今回の日本製紙クレシア 開成工場への導入は、当社の PPA モデル事業「Day Z power」の第1号案件となります。当社が開成工場に太陽光パネルを設置し、Daigas エナジーが太陽光パネルの保守・メンテナンスを行う予定です。発電設備能力は439kW、年間の発電量は約50万kWhを見込んでおり、今回の再エネ電気の供給により、日本製紙クレシア 開成工場は年間で約197t-CO2削減する見込みです。

日本製紙クレシアは、ティッシュペーパーや産業用ワイパーなど、「衛生」に拘ったモノづくりをしている当社の仕入先企業です。今回の再エネ電気の供給により、日本製紙クレシアのCO2排出量削減に寄与することはもちろん、当社にとっては、GHG プロトコル^{*2}の Scope3^{*3}、「カテゴリ1：原材料（仕入商品）」の排出量削減につながります。流通商社の当社としては、Scope3の排出量が最も多いことから、今後も取引先企業を中心に PPA モデル事業をご提案することで、当社の上流・下流、サプライチェーンとの協働により、CO2排出量削減に寄与してまいります。

※1：PPA とは「Power Purchase Agreement（電力購入契約）」の略で、発電事業者が自らの負担により太陽光発電設備を無償で設置し、発電した電気を顧客に販売するモデルのこと。PPA モデルを採用することで、顧客は設備における初期投資や設備の維持・管理の負担がないというメリットがある。

※2：GHG の排出量の算定と報告の国際基準

※3：事業者による GHG 排出量の算定・報告対象範囲の区分

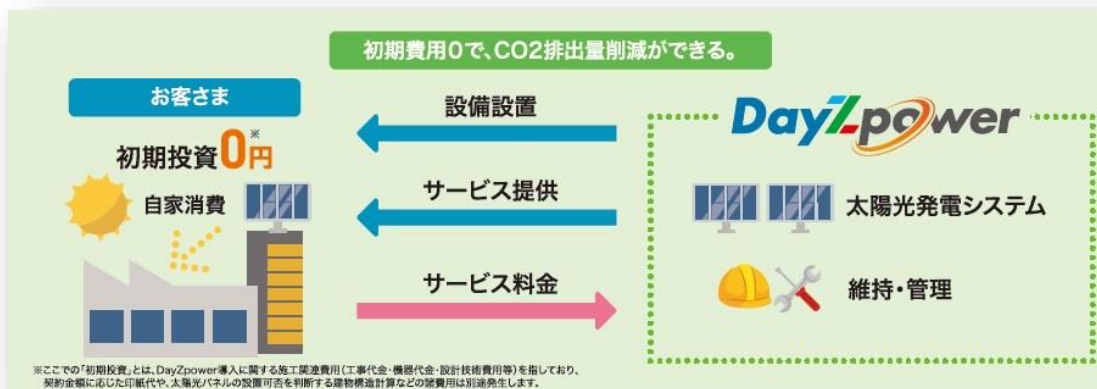
(Scope1:自社の事業活動における直接的な GHG 排出、Scope2:他社から供給された電気、熱・蒸気の使用により発生する間接的な GHG 排出、Scope3:上記以外の事業活動に関わるサプライチェーンの GHG 排出)

<Day Z power（デイズパワー）の紹介動画>

当社と Daigas エナジーの PPA モデル事業の共同ブランド、「Day Z power（デイズパワー）」の紹介動画は下記QRコードよりご覧いただけます。



<Day Z power（デイズパワー）の概要図>



※ ニュースリリースの内容は発表時のものです。

閲覧いただいている時点では内容が異なっている場合がありますのでご了承下さい。

(お問合せ窓口) 株式会社 山善 広報・IR室 担当 本井
電話 06-6534-3095
E-mail : info07@yamazen.co.jp